

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム和(やわらぎ) 北ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭 66		
自己評価作成日	令和2年8月10日	評価結果市町村受理日	令和2年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2278300261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共にささえあい その人らしく 安心した生活を」の理念のもと、利用者が家族と離れても自分らしく安心して暮らし続けることができるよう一人ひとりの思いや状況を理解し、家族の思いを含めたその人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。
また、利用者も高齢な方が多い割には、皆さん元気に散歩をしたり、行事を楽しんで生活ができています。医療機関と連携し利用者家族と協力しながら最期までゆったりと過ごしていただけるよう「一人ひとりに寄り添うケア」を実践し運営に取り組んでいる。家族の方も面会に来やすい環境を提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

七夕と芋ほりの行事を兼ねて年2回の家族会、毎月の便り(個人、全体とで隔月交互)と、信頼と親交の基盤を築き、「利用者ファースト」と管理者が言い切るのも納得の賛辞が家族から寄せられている家族アンケートは、18名中15家族から集まるという高い回収率です。念願のピザ窯を今年6月に裏庭につくり、コロナで中止となった地域のお祭りに替えて野外バイクングを堪能したり、梅ジュース・酒造りでは、畑での梅狩りから始まり梅のなり口の軸を竹串でとることも皆でワイワイガヤガヤと楽しんでいます。他にもピザ焼きに使う流木を天竜川に拾いに出かけたり、コロナ禍であっても一計を案じた安寧の暮らしが見られ、安心が満ちています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示しつつでも確認できるようにしている。また、職員の会議時には必ず読み上げ、事業所のケアの基本が理念であることを共有し徹底して日常のケアの実践につなげている。	採用時に理念説明をおこなうとともに、毎月の全体会議でも読み上げをして、浸透を図っています。現場指導も理念に基づいており、寄り添って傾聴する姿が日々見られ、それが和(やわらぎ)の定番として家族からも評価されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りには屋台を招き、地域住民とのつながりを大切にしている。また、防災訓練に隣家の方に参加していただいたり、地元の自治体にも有事の際の応援、協力をお願いしている。	事業所の住所は東美園ですが、高畑地区に区費を納めての交流が長く続いています。本年はコロナで祭り屋台の練りも中止のため、当日は流しソーメンと手作りピザで、内輪で楽しんでいます。園児や生徒の来訪も現在は無いため、室内レクリエーションを厚くしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお便りを自治会を通じ地域の方に回覧し、事業所の様子、認知症の方の生活、支援について理解をいただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状や取り組みを報告し意見を聞き、出された意見を参考に取り組みの改善をするなどサービスの向上に努めている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員をメンバーとして、時には時間オーバーとなるほど盛り上がっていた運営推進会議でしたが、現在は外部者は集まらず、職員のみで開催しています。議事録は市役所に提出しています。	このままメンバーと距離ができていくのは心配もあるため、個別対談やお便りなど途切れない取組みがあると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区担当者、高齢者相談センターの方に運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みに関する意見をいただいたり、行政からの情報を教えていただき協力関係を築いている。	実地指導のときからの縁で、顔を覚えてくれた市役所職員もいて、個別の質問も叶っており、良好な関係にあります。グループホームの集まりや研修会の開催があった頃は職員数に余裕がなく、現在は満たされたのに実施がなく残念です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議や勉強会で学ぶ機会を持ち、命にかかわる場合を除き「身体拘束をしない」という意識を職員全員で理解し、職員がそばに寄り添い日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。身体拘束適正化検討委員会も立ち上げ活動している。	身体拘束廃止未実施減算については指針を整備し、全体会議と同じ日に身体拘束適正化検討委員会を開催して、「できるだけたくさんの職員が加わる」よう工夫されています。長い勤務の職員が多いことで押れあいが見られることも時にはあるため、管理者が注視しています。	書面についてはさらに見直しをおこない、ファイルを1つにまとめる等整備を進めることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行ない高齢者虐待防止について意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互い注意を呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とする利用者はいないが、学ぶ機会を持ち今後に備え理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所内を見学していただいた上でケアに対する方針や重度化について説明を行っている。また、利用者・家族の不安な思いをうかがい理解、納得が得られるよう話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、お便りなどで利用者様の様子をお伝えし、要望や意見をその都度聞くようにしている。また、出された意見は職員間で共有しケアや運営に反映させるよう努めている。	七夕と芋ほりの行事を兼ねて年2回の家族会があり、芋ほりでは長靴と軍手持参で集まっています。家族にとっても通年行事として浸透していません。面会は1日5組はあり、直接言える機会は潤沢で、家族アンケートも18名中15通集まり、ファン化が覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員それぞれの意見を言い合える雰囲気であり、管理者からも声掛けし意見や思いを聞き運営に反映させている。	全体会議と処遇(ユニット)会議が毎月実施され、5年以上勤務が半分、3分の1が10年とベテランの職員集団が若い管理者に率直にもの言いついていて、管理者も「なんでも言ってもらえていてやりやすい」と、風通しの良い職場で安心な体制にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務の様子を把握し理解している。資格取得・研修の支援や永年勤続表彰を行い職員がやりがいや意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう支援している。また、研修報告を勉強会にて行い、職員全体で内容を共有し全体のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に、ネットワークを作り同業者と研修等で交流する機会を持ち、お互いの情報や意見を交換し、日常のケアや運営に活かしサービスの質の向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人に話を聞いたり行動をよく観察し、困っていることをや不安に思っていることを探り本人が安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合い、家族にも安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、その時の状況や思いを考慮し、必要なサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事の後の片づけや洗濯物を畳むなど、できることはいっしょに行い、役割を担っていただけるよう心がけている。利用者に助けていただくことも多く、理念にもある「共にささえあう」関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を家族に伝え、本人の思いや希望をかなえられるよう話し合い、家族それぞれの立場での協力を得て、共に本人をささえしていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親戚、昔からの友人・知人の訪問もあり、なじみの関係が途切れないよう支援している。また、飲食店などなじみの場所へも継続して行かれるよう家族と協力し支援に努めている。	面会は2月から自粛、一度再開したもののまた中止しており、いったん再開したときは常の倍にもなる来訪で「会いたい」気持ちを改めて確認することとなっています。90歳を越えて編み物を続ける人の糸は家族が届けており、家族と協力し合ってこれまでの暮らしを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが関われる時とそうでない時を見極め、一人ひとりが生活のプラスになるような関わりができるような支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られたときは、当事業所の生活の様子などを情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、何気ない会話や表情、行動などから利用者の思いを汲み取り、希望がなるべくかなえられるよう検討し適切な支援につなげている。	お風呂でゆっくり話を聞いています。また、コロナ禍前は出かける事が多くあり、買い物や外出先で並んで歩きながらの会話の中で、「こういうことができる」「こういうことやっていた」といった新情報、新発見を入手できており、ケアに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らし方や生活の様子、好きなものや嫌いなものなどを聞き、職員が共有しその人らしい生活を継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、本人がのんびりと安心して生活できるよう支援している。また、心身状態の変化には職員全体で共有し、適切な支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの会議にて、担当職員の提案を中心に職員が話し合い介護計画を作成している。また、医師や看護師、家族にも意見を求め身体状況に変化があった時には、直ちに変更し柔軟に対応している。	処遇会議は「利用者が一番困っていること」を話し合う場として、状態と意向を把握して臨んでいます。また、「わたしゃあ満足だよ」と要望のない人にも、さらによりよく生活できるよう努めているのであることは、2表のサービス内容の個別性の高さに滲んでいます。	「2表のサービス内容の担当者が職員だけにならないように、皆で(かかわるメンバーを増やす)」ということが、今後は増えていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの生活の様子やケアの実践・結果を「日常記録」に記入し、職員、看護師が情報を共有し日々のケアにつなげている。また、介護計画のモニタリングにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の生活や心身の状態を把握し、その時々支援が受けられるよう家族と相談しながら柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域で暮らし続けることができるよう地域の飲食店を利用したり、地域の保育園と交流を持ち、豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが、以前より協力医にかかっており、医師の定期的な往診と看護師の訪問が受けられるよう医療との連携を築いている。また、状態により専門医の受診が受けられるよう支援している。	月2回ある協力医の訪問診療に全員が変更していますが、地域の医師なので「もともと主治医だった」という人もいて、先生と「久しぶりだね」と声を掛け合う場面もあります。コロナ対応として「他の患者がいない時間帯にレントゲン撮影しましょう」と安全への配慮も得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に報告し、適切な医療がかけられるよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、適切な助言を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、本人の生活の情報を提供し支援している。また、家族や病院関係者と連携し、回復状況に合わせ退院後の生活がスムーズに送られるよう努めている。家族や面会に行った際には情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を入居時に説明し、早めの段階で利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、本人の状況をふまえて再度意向を確認し、納得したうえで終末期がむかえられるよう医師や看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	職員も看取り経験豊富であり、協力医も24時間オンコールです。「重度化した場合にかかる指針」に準じて契約時に「看取りを迎えたい場所や本人の意向を家族はどう考えているか」について話し合い、緊急搬送先等「重度化における意向確認書」にも家族の署名を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会にて学ぶ機会を設けマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に一度、状況の設定を変えて通報訓練と避難訓練を行っている。近隣の方も訓練に参加していただき、運営推進会議でも災害について話し合う機会を持ち、自治会との協力体制を築いている。	年2回の法定を越えて4回の訓練をおこなっています。事業所の訓練では、ベルが鳴ったら駆けつけてくださるご近所さんがいて、外にでた利用者を見守る役割を担ってくださっています。備蓄は3週間と十分あり、避難方法も吟味され、明確に定まっています。	町内会長に話を通すまではおこなっていますが、地域の防災訓練に参加できるようにさらに準備を進めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を背景に利用者の尊厳を大切に、相手にわかりやすい言葉かけを心掛けプライバシーを損ねることのないよう対応している。	「少し失礼かな?」といった場面では、信頼関係があつてのやりとりであっても、「これ以上は」というラインで管理者がセーブをかけています。また、代表者が「どうしてもお願いしたい」と投げかけ、包丁での野菜切りも継続され、利用者の自己有用感に結ばれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いをくみ取ったり、表情から読み取ったりして本人が決定できるようさりげない会話から声掛けし、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、時間にとらわれることなく一人ひとりのペースを優先し、本人の希望に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせている。自己決定しにくい方には選択していただいたり、本人の情報から職員が支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせたメニューを提供し、食事が生活の楽しみとなるよう支援している。その方の状態に合わせ形態を変えたり、補助食品を併用したりしながらできる限り経口摂取が継続できるよう支援している。	調理師が主となり、また月7日ほどは法人代表者が手作りの献立を提供しており、家族からも「おいしそう」と評判です。色彩を考え、また茄子ソーメンなど昔懐かしい料理も織り込むほか、夫妻で入居の結婚記念日は皆で祝っていて、食に絡んだイベントが盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーを考えたメニューを作り、一人ひとりに合った食事形態にて提供している。また、食事量・水分摂取量を記録し、習慣や健康状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態、習慣に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはその方に合わせた口腔ケアを行い、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力を考慮し、排泄パターンをつかみできる限りトイレでの排泄ができるよう促している。	半数が独歩でトイレに向かいますが、失敗が増えてきたら声掛けをこまめとして、「できるだけトイレで」を念頭に置いています。パッドが汚れると機嫌がわるくなり暴れ気味になるため2名介助としたり、入浴前等タイミングを見計らってトイレに誘うなど、拒否への対応も確立しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳や乳製品を提供したり十分な水分摂取、生活の中での運動を働きかけその方に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めてしまうことなく、希望や状況に合わせて入浴できるよう支援している。また、入浴できない方にはシャワー浴や清拭、手浴・足浴にて対応しそれぞれに合った支援をしている。	菖蒲湯、ゆず湯のかわり湯のほか、温泉浴剤を活用したり、ベット代わりにあひるを浮かべてツンツン突いて遊ぶ人もいます。入浴は週3回を目指し、最低2回を清潔の目安としていますが、暑い日が続くため自分で入れる人は「シャワー浴を自由に」ということが検討されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や状況に合わせ、いつでも休息がとれるよう支援している。また、適切な温度や湿度、清潔な環境で安心して眠られるようきを配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをファイルし、いつでも確認できるようにしている。用法や用量について理解しており、症状に変化があれば看護師に伝え適切な対応ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を十分発揮できるよう、生活歴を考慮し役割を持って生活できるよう支援している。また、買い物やドライブ、外食、散歩など気分転換を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、外食、散歩など本人の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。また、自宅に行ったりお花見に行ったりと家族の協力も得て出かけられるよう支援している。	初詣には近くの神社に詣でることが恒例で、本年もコロナ禍前だったので皆で出向いています。他にも年1、2回のドライブ&外食を位置付けていますが、こちらは断念しました。個別の買い物や散歩は行きたいときに行けていて、陽に焼けた利用者の顔が頻回さを証明しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の支払いができる方には買い物の際には支払いをしていただいている。できない方には職員が介助して行うが買い物する楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも家族に電話できるよう支援している。また、携帯電話を所持されている方もおり、家族とのつながりを持てるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節感のある飾りをしたり、利用者といっしょに選んだ日常の写真や利用者の作品を掲示している。また、トイレの場所がわかるように工夫し、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	楽しかった行事の写真に囲まれ、ソファーに片寄せあって仲睦まじく過ごすリビングには、マッサージチェアが各ユニットにあり、安楽なマイタイムを持つことができています。今年は暑い日が続くためエアコンをつけたまま1日2回の換気、抗菌剤噴霧のコロナ対策を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファーを置き、利用者がいつでもくつろげるようにしている。また、居室でなく共用の和室でも横になって休息がとれるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、床頭台以外は利用者と家族が相談し、持ち込んでいただき、レイアウトを決め、安全面にも考慮し自分の部屋として心地よく過ごせるように工夫している。	テレビの持ち込みが年々増えていて、3分の1程度の居室に入っています。冷蔵庫の補充は衛生チェックも兼ねて職員がおこなっています。以前はつたい歩きができるようレイアウトを工夫した例もありますが、最近は症状への対応として身の回り品を出すことが間々あります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、わかりやすく表示をしたり、安全に過ごせるようさりげなく工夫をしてできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム和(やわらぎ) 南ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美蘭 66		
自己評価作成日	令和2年8月10日	評価結果市町村受理日	令和2年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2278300261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共にささえあい その人らしく 安心した生活を」の理念のもと、利用者が家族と離れても自分らしく安心して暮らし続けることができるよう一人ひとりの思いや状況を理解し、家族の思いを含めたその人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。
また、利用者も高齢な方が多い割には、皆さん元気に散歩をしたり、行事を楽しんで生活ができています。医療機関と連携し利用者家族と協力しながら最期までゆったりと過ごしていただけるよう「一人ひとりに寄り添うケア」を実践し運営に取り組んでいる。家族の方も面会に来やすい環境を提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

七夕と芋ほりの行事を兼ねて年2回の家族会、毎月の便り(個人、全体とで隔月交互)と、信頼と親交の基盤を築き、「利用者ファースト」と管理者が言い切るのも納得の賛辞が家族から寄せられている家族アンケートは、18名中15家族から集まるという高い回収率です。念願のピザ窯を今年6月に裏庭につくり、コロナで中止となった地域のお祭りに替えて野外バイクングを堪能したり、梅ジュース・酒造りでは、畑での梅狩りから始まり梅のなり口の軸を竹串でとることも皆でワイワイガヤガヤと楽しんでいます。他にもピザ焼きに使う流木を天竜川に拾いに出かけたり、コロナ禍であっても一計を案じた安寧の暮らしが見られ、安心が満ちています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示いつでも確認できるようにしている。また、職員の会議時には必ず読み上げ、事業所のケアの基本が理念であることを共有し徹底して日常のケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りには屋台を招き、地域住民とのつながりを大切にしている。また、防災訓練に隣家の方に参加していただいたり、地域の自治体にも有事の際の応援、協力をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお便りを自治会を通じ地域の方に回覧し、事業所の様子、認知症の方の生活、支援について理解をいただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状や取り組みを報告し意見を聞き、出された意見を参考に取り組みの改善をするなどサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区担当者、高齢者相談センターの方に運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みに関する意見をいただいたり、行政からの情報を教えていただき協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議や勉強会で学ぶ機会を持ち、命にかかわる場合を除き「身体拘束をしない」という意識を職員全員で理解し、職員がそばに寄り添い日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。身体拘束適正化委員会も立ち上げ活動している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行ない高齢者虐待防止について意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互い注意を呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とする利用者はいないが、学ぶ機会を持ち今後に備え理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所内を見学していただいた上でケアに対する方針や重度化について説明を行っている。また、利用者・家族の不安な思いをうかがい理解、納得が得られるよう話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、お便りなどで利用者様の様子をお伝えし、要望や意見をその都度聞くようにしている。また、出された意見は職員間で共有しケアや運営に反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員それぞれの意見を言い合える雰囲気であり、管理者からも声掛けし意見や思いを聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務の様子を把握し理解している。資格取得・研修の支援や永年勤続表彰を行い職員がやりがいや意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう支援している。また、研修報告を勉強会にて行い、職員全体で内容を共有し全体のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に、ネットワークを作り同業者と研修等で交流する機会を持ち、お互いの情報や意見を交換し、日常のケアや運営に活かしサービスの質の向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人に話を聞いたり行動をよく観察し、困っていることをや不安に思っていることを探り本人が安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合い、家族にも安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、その時の状況や思いを考慮し、必要なサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事の後の片づけや洗濯物を畳むなど、できることはいっしょに行い、役割を担っていただけるよう心がけている。利用者に助けていただくことも多く、理念にもある「共にささえあう」関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を家族に伝え、本人の思いや希望をかなえられるよう話し合い、家族それぞれの立場での協力を得て、共に本人をささえしていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、親戚、昔からの友人・知人の訪問もあり、なじみの関係が途切れないよう支援している。また、飲食店などなじみの場所へも継続して行かれるよう家族と協力し支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが関われる時とそうでない時を見極め、一人ひとりが生活のプラスになるような関わりができるような支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られたときは、当事業所の生活の様子などを情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、何気ない会話や表情、行動などから利用者の思いを汲み取り、希望がなるべくかなえられるよう検討し適切な支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らし方や生活の様子、好きなものや嫌いなものなどを聞き、職員が共有しその人らしい生活を継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、本人がのんびりと安心して生活できるよう支援している。また、心身状態の変化には職員全体で共有し、適切な支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの会議にて、担当職員の提案を中心に職員が話し合い介護計画を作成している。また、医師や看護師、家族にも意見を求め身体状況に変化があった時には、直ちに変更し柔軟に対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの生活の様子やケアの実践・結果を「日常記録」に記入し、職員、看護師が情報を共有し日々のケアにつなげている。また、介護計画のモニタリングにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の生活や心身の状態を把握し、その時々支援が受けられるよう家族と相談しながら柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域で暮らし続けることができるよう地域の飲食店を利用したり、地域の保育園と交流を持ち、豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが、以前より協力医にかかっており、医師の定期的な往診と看護師の訪問が受けられるよう医療との連携を築いている。また、状態により専門医の受診が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に報告し、適切な医療がうけられるよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、適切な助言を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、本人の生活の情報を提供し支援している。また、家族や病院関係者と連携し、回復状況に合わせ退院後の生活がスムーズに送られるよう努めている。家族や面会に行った際には情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を入居時に説明し、早めの段階で利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、本人の状況をふまえて再度意向を確認し、納得したうえで終末期がむかえられるよう医師や看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会にて学ぶ機会を設けマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に一度、状況の設定を変えて通報訓練と避難訓練を行っている。近隣の方も訓練に参加していただき、運営推進会議でも災害について話し合う機会を持ち、自治会との協力体制を築いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を背景に利用者の尊厳を大切にし、相手にわかりやすい言葉がけを心掛けプライバシーを損ねることのないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いをくみ取ったり、表情から読み取ったりして本人が決定できるようさりげない会話から声掛けし、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、時間にとらわれることなく一人ひとりのペースを優先し、本人の希望に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせている。自己決定しにくい方には選択していただいたり、本人の情報から職員が支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせたメニューを提供し、食事が生活の楽しみとなるよう支援している。その方の状態に合わせ形態を変えたり、補助食品を併用したりしながらできる限り経口摂取が継続できるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーを考えたメニューを作り、一人ひとりに合った食事形態にて提供している。また、食事量・水分摂取量を記録し、習慣や健康状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態、習慣に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはその方に合わせた口腔ケアを行い、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力を考慮し、排泄パターンをつかみできる限りトイレでの排泄ができるよう促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳や乳製品を提供したり十分な水分摂取、生活の中での運動を働きかけその方に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めてしまうことなく、希望や状況に合わせて入浴できるよう支援している。また、入浴できない方にはシャワー浴や清拭、手浴・足浴にて対応しそれぞれに合った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や状況に合わせ、いつでも休息がとれるよう支援している。また、適切な温度や湿度、清潔な環境で安心して眠られるようきを配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをファイルし、いつでも確認できるようにしている。用法や用量について理解しており、症状に変化があれば看護師に伝え適切な対応ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を十分発揮できるよう、生活歴を考慮し役割を持って生活できるよう支援している。また、買い物やドライブ、外食、散歩など気分転換を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、外食、散歩など本人の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。また、自宅に行ったりお花見に行ったりと家族の協力も得て出かけられるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の支払いができる方には買い物の際には支払いをしていただいている。できない方には職員が介助して行方が買い物する楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも家族に電話できるよう支援している。また、携帯電話を所持されている方もおり、家族とのつながりを持てるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節感のある飾りをしたり、利用者といっしょに選んだ日常の写真や利用者の作品を掲示している。また、トイレの場所がわかるように工夫し、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き、利用者がいつでもくつろげるようにしている。また、居室でなく共用の和室でも横になって休息がとれるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、床頭台以外は利用者と家族が相談し、持ち込んでいただき、レイアウトを決め、安全面にも考慮し自分の部屋として心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、わかりやすく表示をしたり、安全に過ごせるようさりげなく工夫してできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		